



止まらない大都市への人口流出 ～日本創成会議の報告を受けて～

茨城県企画部統計課 人口労働グループ 小野瀬 慎之輔

1 はじめに

今年の5月8日に民間の有識者による日本創成会議の人口減少問題検討分科会が、提言「ストップ少子化・地方元気戦略」の中で2040年の人口推計を発表しました。

これによると、地方からの人口流出が続くという前提で、2010年から2040年までの間に「20～39歳の若年女性人口」が50%以上減少し、消滅する可能性がある市区町村は全国に896あり、その中でも人口が1万人未満で消滅の可能性が極めて高い市町村は523に上るという結果でした。このことは、各メディアでも大きく取り上げられ、記憶に新しい方も多いのではないのでしょうか。

茨城県も例外ではなく、44市町村中18市町村が消滅の可能性があるとしてリストアップされ、うち3町は人口が1万人未満になり、消滅の可能性が極めて高いとされました。

そこで今回は、茨城県常住人口調査結果を基に、茨城県における人口流出、とりわけ若年女性（20～39歳）の東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）への人口流出の状況について、分析していきます。

2 常住人口調査とは

本県が実施している常住人口調査は、直近の国勢調査結果の人口を基礎とし、これに市町村から報告される住民基本台帳の増減数を加えて毎月の県人口を推計しています。

人口が増減する要因としては、

①自然動態＝出生者数－死亡者数

②社会動態＝転入者数－転出者数

があり、この2つの合計が増減数となります。

3 東京一極集中は本当か

日本創成会議の発表によると、「地方の人口減少の最大要因は、若者(男女)の大都市(特に東京圏)への流出によるもの」となっています。

それでは本当にそうなのか、常住人口調査結果で確認してみることになります。今回は大都市、とりわけ東京圏への人口流出の状況を、社会動態からみていきます。

表1 人口増減数及び社会増減数(過去3年分)

平成23年		平成24年		平成25年	
人口増減数	社会増減数	人口増減数	社会増減数	人口増減数	社会増減数
△ 14,444	△ 7,991	△ 10,011	△ 3,230	△ 13,109	△ 5,342

表2 都道府県別・転出超過数上位3位(過去3年分)

	平成23年		平成24年		平成25年	
	都道府県	転出超過数	都道府県	転出超過数	都道府県	転出超過数
1	東京都	2,440	東京都	2,944	東京都	3,283
2	神奈川県	1,243	千葉県	1,005	千葉県	1,404
3	千葉県	886	埼玉県	904	埼玉県	996

表1は過去3年分の人口増減数とそれに占める社会増減数を表したものです。その社会増減数のうち、茨城県からの転出超過数（転出者数－転入者数）が多い都道府県の上位3位を表したものが表2になります。

表2をみると、確かに過去3年、東京都への人口流出が一番多くなっており、2位、3位も東京圏になっていますから、茨城県における人口流出は、東京圏に集中していると言えることができるでしょう。

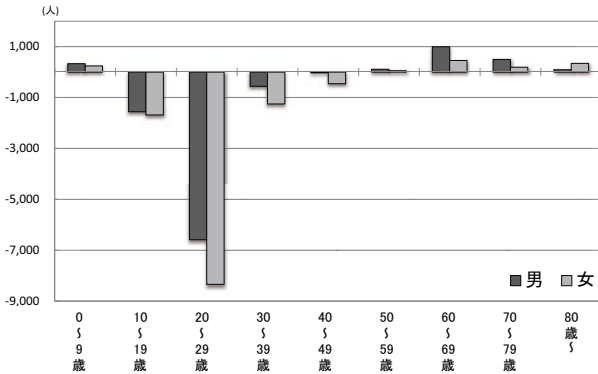
4 若年女性の人口流出

さて、茨城県の人口においては、どのような年齢階層が東京圏へ流出しているのでしょうか。

図1は過去3年間（平成23年～平成25年）における年齢別（10歳階級）の東京圏に対しての移動超過数を表したものになります。



図1 年齢別・県外(東京圏)移動超過数(H23~H25)



これをみると、20~29歳の人口流出が際立っています。また、日本創成会議でも挙げられている「若年女性(20~39歳)」に着目すると、3年間で9,595人の転出超過となっており、若年女性の東京圏への流出が多くなっていることが分かります。

表3 男女別人口及び減少率

	単位:人、%					
	平成22年10月1日		平成26年10月1日		減少率	
	男	女	男	女	男	女
総数	1,479,779	1,489,991	1,456,521	1,464,663	△ 1.6	△ 1.7
20~39歳	377,461	345,481	336,754	301,812	△ 10.8	△ 12.6

※平成22年は国勢調査、平成26年は常住人口調査による。

表3をみると、茨城県内においては、平成26年10月1日時点で女性人口が男性人口より多くなっていますが、20~39歳という限られた範囲で人口を比較すると、女性人口は男性人口より少なくなっています(10歳階級でみると、0~59歳の各階級でも同様のことが言える)。つまり、20~39歳という範囲でみると、女性の人口は男性よりも少ないのに対して、東京圏への人口流出は男性よりも多いということになります。

また、国勢調査のあった平成22年から現在までの20~39歳人口の減少率を男女別にみると、男性が△10.8%、女性が△12.6%となっており、若年女性の減少率が男性に比べて高くなっていることが分かります。

この傾向が続くと仮定すれば、今後も若年女性の人口減少が続くと予想されます。

本県でも、そうした流れを止めるべく、働く場所を確保するという一方で、企業の誘致等行ってきていますが、さらに政府の方針で国としてしっかりした対応が必要になってくるの

ではないでしょうか。

5 若年女性人口の現状

本県における若年女性の人口変化率(2010年基準)をまとめると以下ようになります。

市町村名	若年女性(20-39歳)人口			若年女性人口変化率(2010→)	
	2010年 (10.1現在)	2014年 (10.1現在)	2040年	2014年 (10.1現在)	2040年
	単位:人、%				
茨城県	346,687	301,812	205,386	△ 12.9	△ 40.8
水戸市	34,193	31,298	23,515	△ 8.5	△ 31.2
日立市	20,487	16,324	9,628	△ 20.3	△ 53.0
土浦市	17,260	15,050	10,504	△ 12.8	△ 39.1
古河市	16,961	15,165	8,723	△ 10.6	△ 48.6
石岡市	8,490	7,232	3,872	△ 14.8	△ 54.4
結城市	6,159	5,384	3,977	△ 12.6	△ 35.4
龍ヶ崎市	9,760	8,247	5,666	△ 15.5	△ 41.9
下妻市	5,218	4,373	2,623	△ 16.2	△ 49.7
常総市	7,632	6,326	4,374	△ 17.1	△ 42.7
常陸太田市	4,849	4,089	1,731	△ 15.7	△ 64.3
高萩市	3,200	2,669	1,215	△ 16.6	△ 62.0
北茨城市	4,504	3,696	1,916	△ 17.9	△ 57.5
笠間市	8,914	7,771	4,453	△ 12.8	△ 50.0
取手市	12,897	10,750	6,653	△ 16.6	△ 48.4
牛久市	10,616	9,613	8,458	△ 9.4	△ 20.3
つくば市	31,376	29,713	26,640	△ 5.3	△ 15.1
ひたちなか市	19,163	16,268	13,114	△ 15.1	△ 31.6
鹿嶋市	7,019	6,342	4,091	△ 9.6	△ 41.7
潮来市	3,306	2,858	1,622	△ 13.6	△ 50.9
守谷市	8,969	7,988	6,422	△ 10.9	△ 28.4
常陸大宮市	4,265	3,658	1,599	△ 14.2	△ 62.5
那珂市	5,966	5,201	3,113	△ 12.8	△ 47.8
筑西市	11,874	9,976	5,666	△ 16.0	△ 52.3
坂東市	6,142	5,318	3,367	△ 13.4	△ 45.2
稲敷市	4,455	3,708	1,636	△ 16.8	△ 63.3
かすみがうら市	4,995	4,100	2,770	△ 17.9	△ 44.5
桜川市	4,543	3,827	1,805	△ 15.8	△ 60.3
神栖市	12,173	10,311	8,558	△ 15.3	△ 29.7
行方市	3,733	3,095	1,519	△ 17.1	△ 59.3
鉾田市	5,182	4,392	2,666	△ 15.2	△ 48.6
つくばみらい市	5,712	5,854	3,160	2.5	△ 44.7
小美玉市	5,995	5,216	3,645	△ 13.0	△ 39.2
茨城町	3,660	3,056	2,154	△ 16.5	△ 41.2
大洗町	1,988	1,586	1,079	△ 20.2	△ 45.7
城里町	2,045	1,661	674	△ 18.8	△ 67.0
東海村	4,568	3,918	3,922	△ 14.2	△ 14.1
大子町	1,335	1,123	366	△ 15.9	△ 72.6
美浦村	1,831	1,488	710	△ 18.7	△ 61.2
阿見町	6,084	5,543	3,472	△ 8.9	△ 42.9
河内町	897	708	304	△ 21.1	△ 66.1
八千代町	2,376	2,072	1,192	△ 12.8	△ 49.8
五霞町	1,090	926	450	△ 15.0	△ 58.7
境町	2,935	2,531	1,666	△ 13.8	△ 43.2
利根町	1,870	1,388	698	△ 25.8	△ 62.7

※2010年は国勢調査、2014年は常住人口調査、2040年は日本創成会議発表による。

6 おわりに

最近、限界集落についての話題や今回の日本創成会議による報告など、人口減少についての話題が大きく取り上げられるようになり、日本政府は急速に進む人口減少や地方の衰退といった長期的な課題に国を挙げて取り組むため、地方創生担当大臣を新たに設けました。今回のことから、国、自治体、そして県民の皆さんがそれぞれに危機感を持っていただき、今後、若者を中心とした人口流出に対し、より有効な対策や政策を打ち出していく良いきっかけになればと思います。

平成26年度茨城県統計グラフコンクール結果

統計知識の普及向上を図るとともに、次代を担う児童・生徒を中心に早い段階から統計に慣れ親しんでもらうことを目的に「第65回茨城県統計グラフコンクール」が茨城県、茨城県教育委員会及び茨城県統計協会の主催、並びに茨城新聞社の後援により6部門に分けて行われ、3,974点（9,682人）のご応募をいただきました。昨年度と比較すると応募点数は減少しましたが、作成者数は増加しており、合作による作品が増えているようです。

9月17日（水）に茨城県庁で県審査会を開催し、各地区から厳選された461作品において審査が行われ、県知事賞5点、県議会議長賞6点、県教育長賞10点、茨城新聞社長賞5点など101点の入選作品が決定しました。入選作品のうち32点を全国コンクールに出品し、審査の結果、1点の作品が部門別の第1位である特選に選ばれたのをはじめ、1点が入選一席、9点が入選、11点が佳作に入賞するという輝かしい成績を収めることができました。本県は応募点数が21年連続で日本一、また、15年連続で特選を受賞するなど、長年にわたりトップクラスを維持しています。

全国コンクール特選受賞者は平成26年11月19日（水）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される「第64回全国統計大会」において、県コンクールの上位入賞者は平成27年1月21日（水）に茨城県庁で開催される「平成26年度統計功労者表彰式」で表彰される予定です。

平成26年度茨城県統計グラフコンクールの応募・入賞状況は次のとおりです。

平成26年度茨城県統計グラフコンクール応募・入賞状況

応募状況

部 別	第1部	第2部	第3部	第4部	第5部	パソコン統計 グラフの部	計
応募作品数	470	1,134	1,526	325	1	518	3,974
応募人数	922	2,591	3,935	915	1	1,318	9,682

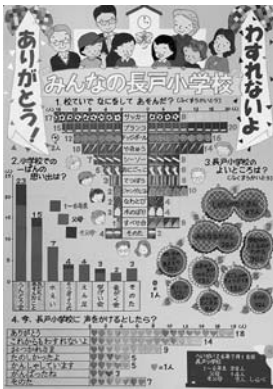
入賞状況

賞 名	作品点数	作成者数	全国 コンクール 出品点数	全国コンクール入賞点数			
				(特選)	(入選一席)	(入選)	(佳作)
県知事賞	5	11	5	—	1	2	1
県議会議長賞	6	13	6	1	—	2	2
県教育長賞	10	31	10	—	—	2	4
茨城新聞社長賞	5	13	5	—	—	—	2
県統計協会総裁賞	25	45	6	—	—	3	2
県統計協会会長賞	50	106	—	—	—	—	—
合 計	101	219	32	1	1	9	11

統計の窓



茨城県知事賞



〈第1部〉
龍ヶ崎市立
長戸小学校
2年
梅澤 奈緒
大貫 麻琴
北澤 真子
油原 暖

※全国コンクール
「入選」受賞



〈第2部〉
日立市立
河原子小学校
3年
根岸 浩志朗
2年
鈴木 隆生

※全国コンクール
「入選」受賞

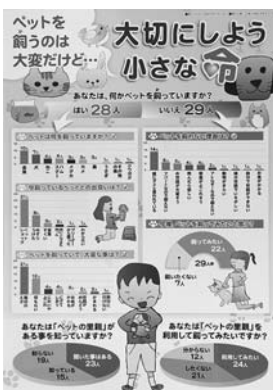


〈第3部〉
龍ヶ崎市立
馴柴小学校
6年
近野 友南



〈第4部〉
小美玉市立
小川北中学校
3年
重藤 鈴音
長澤 花奈
重藤 緋那

※全国コンクール
「佳作」受賞



〈パソコン統計
グラフの部〉
東海村立
石神小学校
4年
木内 恵人

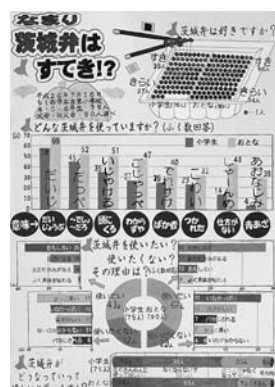
※全国コンクール
「入選一席」受賞

茨城県議会議員賞



〈第1部〉
龍ヶ崎市立
馴柴小学校
1年
近野 颯南

※全国コンクール
「入選」受賞



〈第2部〉
筑西市立
古里小学校
4年
皆川 陽奈子

※全国コンクール
「特選」受賞

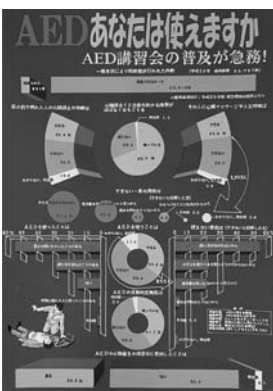


〈第3部〉
結城市立
結城西小学校
6年
宍戸 承太郎
3年
宍戸 つぶら



〈第4部〉
常総市立
石下中学校
3年
上野 姫果
関 桃佳
中山 優華
木村 桃花
平間 万尋

※全国コンクール
「佳作」受賞



〈第5部〉
つくば市
倉田 廣之

※全国コンクール
「入選」受賞



〈パソコン統計
グラフの部〉
八千代町立
東中学校
2年
篠原 菜々花
井上 あかり
内田 美羽

※全国コンクール
「佳作」受賞

茨城県教育委員会教育長賞



〈第1部〉
坂東市立
杏掛小学校
1年
澤山 まひろ



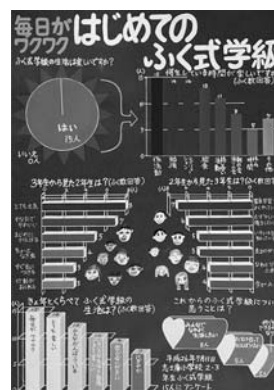
〈第1部〉
五霞町立
五霞東小学校
2年
柿沼 歩花
渡邊 涼夏
渡辺 もか

※全国コンクール
「入選」受賞



〈第2部〉
坂東市立
内野山小学校
4年
木村 藍里
増田 梨那

※全国コンクール
「入選」受賞

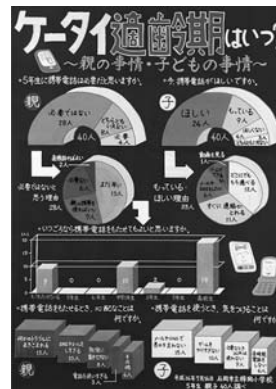


〈第2部〉
かすみがうら市立
志士庫小学校
2年
小野 煌牙
細野 倅真
3年
白戸 樹里
七條 陸空
松延 雛子

※全国コンクール
「佳作」受賞



〈第3部〉
日立市立
河原子小学校
5年
鈴木 教弘
島田 晴紀



〈第3部〉
石岡市立
柿岡小学校
5年
加藤 可奈子
江畑 希歩
3年
加藤 里佳子



〈第4部〉
日立市立
泉丘中学校
2年
佐藤 夢芳

※全国コンクール
「佳作」受賞



〈第4部〉
高萩市立
高萩中学校
3年
大山 勇
澤田 渉大
須田 章裕
古川 恵直美
伊藤 沙弥香



〈パソコン統計
グラフの部〉
八千代町立
東中学校
3年
太田 佳奈
松永 桂奈
野村 柚花
植竹 咲月

※全国コンクール
「佳作」受賞



〈パソコン統計
グラフの部〉
八千代町立
東中学校
3年
鈴木 翔也
中澤 正人
長勢 翔真
栗原 晴海
大久保 逸貴

※全国コンクール
「佳作」受賞

◎各部門の区分は以下のとおりです
 第1部……………小学校1・2年生の児童
 第2部……………小学校3・4年生の児童
 第3部……………小学校5・6年生の児童
 第4部……………中学校(注1)の生徒
 第5部……………高等学校(注2)以上の生徒・学生及び一般
 パソコン統計グラフの部…小学校の児童以上

 (注1) 中等教育学校の前期課程を含む。
 (注2) 中等教育学校の後期課程を含む。